

平成27年度

- 第 2 回 -

藤 岡 市 総 合 教 育 会 議 議 事 録

藤 岡 市

## 平成27年度第2回藤岡市総合教育会議議事録

日 時 平成27年9月25日（金）

午後2時

場 所 教育庁舎3階 第1会議室

### 協議事項

- (1) 日程第1 「藤岡市総合教育会議運営要綱」の一部修正の報告
- (2) 日程第2 「協議・調整」

出席者

市長	新井利明君	教育委員長	小林喜剛君
教育委員長職務代理者	大理淳一君	教育委員	増田寛君
教育委員	小柏繭子君	教育長	田中政文君

説明のため出席した者

教育部長	志村哲君	教育総務課長	岡本通弘君
学校教育課長	黒澤英樹君	生涯学習課長	鈴木茂信君
文化財保護課長	寺内敏郎君	スポーツ課スポーツ推進係長	原庸子君
学校給食センター所長	塚本良君	図書館長	神戸宏夫君
企画部長	長瀬義信君	企画課長	鈴木伸生君

事務局職員出席者

教育管理係長	田辺亮	主任	大久保翔悟
--------	-----	----	-------

## 会 議 の 概 要

開会 14時00分

教育部長（志村 哲君） こんにちは。定刻になりましたので、ただ今より平成27年度第2回藤岡市総合教育会議を開催いたします。開催に先立ちまして、まず始めに、留意事項を申し上げます。本会議は原則公開となっております。受付でお渡しした注意事項をご確認の上傍聴されますようお願いいたします。それでは、新井市長よりごあいさつをいただきます。

市 長（新井利明君） それでは、第2回藤岡市総合教育会議に先立ちまして、一言お礼を含め、ごあいさつさせていただきます。大変お忙しいなか、そして今日は足元のわるいなかご出席いただきまして、ありがとうございます。第2回総合教育会議ということでございまして、国のほうから教育に対するの取組みというもので、こういう体制作りというものがあつたわけですがけれども、みなさんの、教育委員さんの方々の色々な意見をいただきながら、藤岡市の教育というものを作っていきたいと思っております。今日も議事の報告のなかでいじめの問題について資料がありますが、この問題についてもいつも学校現場と行政とが連結しながらいじめの問題を対応していかなければいけないと思っております。特にいじめられる子、将来その方の性格に対して禍根を残すわけでございますので、どうぞみなさんの力をいただきながら、進めていきたいと思っております。開会につきまして、一言だけお礼を含めまして、あいさつとさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

教育部長（志村 哲君） ありがとうございます。

続きまして、小林教育委員長よりごあいさつをいただきます。

教育委員長（小林喜剛君） 改めまして、こんにちは。第2回総合教育会議ということで、前回に続いてみなさんの忌憚のない意見が出ればいいなと思っております。先ほど市長のほうからも話がありましたように、いじめ問題に関しては、非常に根が深くて一見するとわからないようなところで起こっているということもありますので、きめ細かい対応をしていかなければならないと思っております。そういった面でも、小さいことでも会議のなかで発言していただいて、ますます良くなっていければいいなと思っております。よろしく申し上げます。

教育部長（志村 哲君） ありがとうございます。

それでは早速、協議事項に移らせていただきますが、議事進行は、新井市長にお願いいたします

## 日程第1 「藤岡市総合教育会議運営要綱」の一部修正の報告

市長（新井利明君） それでは、協議事項に入らせていただきます。

日程第1 「藤岡市総合教育会議運営要綱」の一部修正の報告について事務局より説明をお願いいたします。

教育総務課長（岡本通弘君） 教育総務課長の岡本です。よろしくをお願いいたします。

それでは、「藤岡市総合教育会議運営要綱」の一部修正の報告について説明させていただきます。お手元にあります資料の報告1をご覧ください。

6月22日に開催されました第1回藤岡市総合教育会議において承認していただいた藤岡市総合教育会議運営要綱について、再度法規担当者と協議した結果、第2条の組織の構成者及び第4条の会議の公開について、根拠法である地方教育行政の組織及び運営に関する法律で規定しているの、改めて要綱で規定する必要はないのではないかと指摘を受け、再考の結果、これを除くものです。したがって、7条あった条項が5条となりました。以上説明とさせていただきます。

市長（新井利明君） ただいま事務局から説明がありましたが、藤岡市総合教育会議運営要綱の一部修正についてはよろしいでしょうか。

出席者全員 意見なし

市長（新井利明君） 意見がないようですので、報告第1号「藤岡市総合教育会議運営要綱の一部修正について」を終わります。

## 日程第2 「協議・調整」

市長（新井利明君） 次に、日程第2「協議・調整」に移らせていただきます。本日の会議資料としまして、事務局に4つの資料を用意してもらいましたので、最初にこちらの資料の説明を事務局よりお願いします。

学校教育課長（黒澤英樹君） 学校教育課の黒澤と申します。よろしく申し上げます。資料1をご覧ください。はじめにじめの再調査の結果でございますが、これは文部科学省の調査でございます。内容としましては平成26年度の小中学校におけるじめの状況について、じめの認知に関する考え方の一部見直しを踏まえて、じめの正確な状況を把握するものでございます。一部

見直しというのはどういうものかと申しますと、初期段階のいじめ、ごく短期間のうちに解消したいじめも含めて、計上をしてくださいというものです。調査は8月下旬に行われました。この結果は3番ですが、小学校は17件、中学校は6件、合計23件のいじめの報告がありました。この見直しの前は3件ということでしたので、初期段階それからごく短期間のうちに解消したいじめが市内で20件ほどあったということと考えております。そのほか、いじめ発見のきっかけですが、学校の教職員等が発見したのが11件、特に学級担任が6件となっております。そのほかにも学校以外の情報ということで12件ありました。多くの情報を共有することが大事だと感じました。5番のいじめの態様ですが、やはり冷やかしやからかい悪口等が16件、仲間外れ、集団による無視が6件、軽くぶつかられる、たたかれるが6件でございました。

次のページをご覧ください。ここにはいじめ防止に係る各小中学校の取組が書かれています。第一小学校ですが、いじめのアンケートの実施、生徒指導の会議の実施、人権集中学習として人権集会やビデオ視聴、道徳の授業等を行っております。そのほかそれぞれの学校で特色のある取組みを行っておりますので、あとでご覧いただければと思っております。それと第一小のところにあります、アンケートの実施というのがありますが、岩手のいじめの件で、情報共有に問題があったということがありました。私のほうから学校に問い合わせしてみたのですが、例えば、鬼石中学校や平井小学校のような小さい学校につきましては、子どもがしたアンケートをまず担任が見て、そのあと管理職が見るというダブルチェックができます。一方、大きい学校として、東中学校ではどうしているかという、まずは担任が見る、そのあとに学年で見る、そして気になる生徒を管理職に報告する。そしてさらに生徒指導部会に情報を上げて、学校全体で情報を共有しています。小野中学校では、まず担任が見る、それから教育相談主任が見る、そして気になる生徒は管理職へ報告する、教育相談主任が集約して、全体へ周知するというかたちになっています。こちらのほうでは校長会議、教頭会議で小さい学校では担任と管理職のダブルチェックをお願いしています。大きい学校でも必ず複数の目で確認して、必要な情報を管理職まで上げるようにということで、指示をしています。いじめについては以上でございます。

続いて資料2をご覧ください。平成27年度全国学力調査の結果について

でございます。この調査は4月21日に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施されました。その結果が下にございますが、小学校のほうは国語、算数、理科、知識活用とも県も全国も上回っています。この理由としては、先生方が子どもたちの知識活用を高めるような学習を進めてくれたということと、知識の定着を図る授業がしっかりしてきたということだろうと考えられます。小学校の先生方の授業改善が進んできているのだと思います。

それから中学校でございますが、中学校につきましては全国とほぼ同程度で、理科のみ上回るという状況でした。ただ中学校のほうは、括弧の中を見ていただきますと、括弧は昨年度なのですが、昨年度は県も全国も上回っておりまして。今年が全国と同程度なのは、原因として色々考えられるかと思いますが、今年の中学校3年生は満点に近い点数を取る子が少なかったということです。上位の子の層が薄いという傾向が見られました。

次のページの資料をご覧ください。こちらは質問紙調査といたしまして、いわゆるアンケート調査なのですが、それを簡単にまとめたものでございます。最初のほうは小学校なのですが、全国より5ポイント以上高かったものをまとめました。例えば1番を見ていただきますと、「学習塾で勉強していますか」ということで、全国よりも学習塾に通っていない子が多いということがわかります。それから2番を見ていただきますと、「家のひとは授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」では来るうちが多いということがわかります。4番の「学校のきまりを守っていますか」ということで守っている子が多いということがわかります。それと10番から16番なのですが、「理科の勉強は好きですか」ということなのですが、理科が好きだという小学校6年は多いという状況がわかりました。それと全国より5ポイント以上悪かったものを見ますと、例えば1番、「友達の前で発表することは得意か」、2番の「学級会などの時間に話し合っていると思うか」、5番を見ますと、「5年までで受けた授業で学級の友達との間で話し合いの活動を行っていたか」、7番では「国語の授業で意見を言うときにうまく伝わるように話の組立てを工夫しているか」ということで、どうやら藤岡の子どもたちは発表や話し合いというところに課題があるのかなと感じております。

次のページをご覧ください。中学校のことになりますが、中学校につきましては、5ポイント以上高かったものとして、2番、3番の「テレビゲームをしますか」、「スマートフォンでメールをしますか」ということで、全国よ

り低いものでした。それと中学生も学習塾で勉強している割合が低いことがわかります。それと12番、13番、14番を見ていただきますと、「学校の規則を守っていますか」、「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」というのが全国よりもそう思っている子どもたちが多いことがわかりました。それと中学校のほうも19番から24番を見ていただきますと、「理科の勉強は好きですか」に対して、中学校3年生も理科好きが藤岡に多いことがわかります。それから全国より5ポイント以上悪かったことを見ていただきますと、4番から8番の「調査問題の解答時間は十分でしたか」、要するに時間が余ったという子が少ないということで、やはり先ほども申したように、ちょっと上位の子の層が薄かったという印象を持っています。以上が全国学力調査の結果でございます。

続いて資料3をご覧ください。リジャイナ市との姉妹都市提携についてでございます。このことにつきまして、ホームステイ事業の現状についてお話しさせていただきますと、藤岡市とリジャイナ市とのホームステイ事業につきましては、今年度で24年目ということで、非常に長い事業となっております。今年度は藤岡市の生徒25名がリジャイナ市へ参りました。来年度はリジャイナ市から藤岡市へ来るということで1年ごとのホームステイということになります。これまで藤岡市から派遣された生徒は300名を超えていまして、24年経ちますので、そろそろ初期の生徒が中学生の親になってくる時期となります。そうしまして、リジャイナ市の生徒募集に係る流れが藤岡市と違っていています。藤岡市では学校教育課が中心となっておりますが、リジャイナ市では学校の先生やボランティアが中心となった実行委員会というものがあまして、その実行委員会が中心となっております。実行委員会というのは行政ではありません。まず、リジャイナに2つの教育委員会がありまして、公立学校教育委員会とカトリック教育委員会、この2つの教育委員会に実行委員会が生徒の募集を呼びかけます。そうしますと、2つの教育委員会は、それぞれ管下に約50の学校がありますが、その50の学校に生徒の募集を依頼します。そして、その応募者の中から25名の生徒を、この実行委員会が中心となって、応募書類等で決定するという流れでリジャイナのほうの生徒は決まっています。そして、この実行委員会はどこで資金を得ているのかというと、行政からの支援はなく、保護者が資金を負



担したり、参加生徒がボランティアを行って資金を集めています。ただ、最近はこの事業が認知され始めまして、2つの教育委員会からもお金が出され始めています。

こうした現状のなかで、今年もホームステイに行ったわけですが、こうした市民の交流が市長の目に留まりまして、今年度のリジャイナの訪問の際に、リジャイナ市長と引率者の懇談のなかで下記のような会話がなされたということでもあります。リジャイナ市長から「藤岡市は姉妹都市について関心がないですか」と聞かれまして、藤岡市のほうから「色々な問題はありますが、そうしたことも含めていい方向にいけばいい」とお話ししましたら、リジャイナ市長から「色々な問題はあっても、貿易やお金の問題ではなくて、人の交流にポイントをおいた関係を築ければと思う。特別なことを行うのではなく、今行っていることを継続していきたいと思う」。藤岡市のほうから「リジャイナはサスカチュワン州の州都、25万人の中央都市、藤岡市は7万人の地方都市ですが、いいですか」と聞きましたら、「全く問題はない」と回答があり、「藤岡市に帰って報告します」という会話がなされました。

こちらを市のほうへ報告いたしまして、姉妹都市になりますと自治交流課のほうになりますので、自治交流課のほうから、再度リジャイナ市長に、このことについて意向を確かめてほしいということで、話をしています。そして、一昨日メールが届いて、昨日見たのですが、リジャイナ市長の考えについてですが、リジャイナ市のほうで協議を行ったようです。その結果、メールの内容としては、「両市の間で経済発展になる要素が何になるのか提出してほしい」というものでした。市長としては、人の交流ということで、姉妹都市になればいいなというお話なのですが、市となってみると、経済に結びついてくるのかとかいう話になってきます。この件についてはこれから自治交流課と話し合いを持ちながら、どういったかたちで進められるかということで、進めていければと思います。

最後に資料4をご覧ください。今年度の中学校総合体育大会・関東・全国大会の活躍ということで、体育関係のものでございます。見ていただきますと、まず新体操が関東大会に出場しています。それから、野球で北中学校がベスト4、小野中学校がベスト8ということで活躍しました。そして、次のページをご覧ください。個人戦になりますが、剣道で北中の男子、東中の女子が関東大会や全国大会に出場しています。それから柔道のほうも東中がベ

スト4とか女子もベスト8ということで活躍しています。サッカーで西中がベスト8ということでした。次のページにいきますと、陸上で西中や北中の子が関東や全国で活躍しています。次のページをご覧ください。北中の女子が関東や全国に出場しています。最後のページになりますが、水泳で東中の男子、小野中の女子の子どもたちが関東や全国で活躍しているという状況でございます。スポーツ関係もこれから活躍する子が増えてくるということを期待しています。

私からの資料の報告は以上となります。

市長（新井利明君） ただいま4項目におきまして、事務局より説明がありましたが、これらについて、みなさんのご意見を聞かせていただきたいと思っております。資料以外の件につきましても結構ですので、忌憚のないご意見を出していただけたらと思っております。

教育委員長（小林喜剛君） いじめの問題に関してなんですけれども、アンケートを実施した結果を各学校でチェックしているという報告がありましたが、大きい学校と小さい学校では、やはり見る回数が違ってきてしまうということなので、それはちょっとまずいのではないかと思います。あの学校に行っているから見られるとか、大きい学校だったから見られなかったとか、というのはまずいのではないかと思います。やはりこうなさいということも必要じゃないかな、こうしたほうがいいですよとかではなくて、手順化しなくてはいけないことは手順化していくことも必要だと思います。

市長（新井利明君） ただいまの意見に対して、いかがでしょうか。

教育長（田中政文君） 各学校では、藤岡市いじめ防止基本方針に基づいて、学校いじめ防止基本方針を整備しています。そのなかにはそういったことが謳ってありますので、そういったことについて、漏れのないようにしています。具体的に方法を書いて、人事異動で人がかわったとしても、そういう体制でチェックしていくということです。そこに書かれているのは、早期発見、早期対応、日常の人間関係作り、そういったことについてきちんとマニュアルを作って、各学校に差がないように体制をとっています。ただ先日の事件は、作ってあっても機能しなかったことが問題だと思います。そのへんは繰り返しこちらからも指導を行っていきたいと思っています。

市長（新井利明君） ほかにございますか。

市長（新井利明君） 先ほど、黒澤課長のほうからありましたが、今日は企画部長、

企画課長も同席させてもらっています。先ほどのリジャイナの問題で姉妹都市交流となると、教育委員会から企画部での問題になりますが、今後、姉妹都市交流をどういうふうにしていくのかとか、リジャイナへ行った24年前くらいの人、もう成人で意見を聞かなくてはいけないのかなと思います。そういうこともありまして、企画部も同席させてもらいましたが、基本的にはむこうの市長からせつかくお言葉がありました。これまではどちらかというと、リジャイナの市長はそういうことにあまり積極的ではない、と私は聞いていたものですから、踏み込んでいかなかったのですけれども、むこうの市長も替わられて、踏み込んで交流をしたい、なおかつ結果を求めるのではない、お互いの市の発展のためにというくらいで交流をしたいというお話がございましたので、またよく検討して、みなさんにも関わる場面があると思いますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

また、昨夜、国体へ行かれる選手の激励会がありまして、中学生の陸上、水泳の選手が混じっていました。頑張ってきてほしいと思っております。また、私の個人的な考えなのですが、みなさんにお叱り等があるかもしれませんが、非常に中学生の野球が強い、サッカーも強いと言われ、団体競技として、高校生に残っていただいて、そういった団体、全国大会になるとテレビも含めて、すごい目が向くわけですので、そうすぐに全国大会に出られるわけではないのですけれども、なるべく地元の中学生は地元の高校に行ってもらって、そういう大会を目指してもらいたい、というようなことも大会関係者にお話しさせてもらっています。すぐに結果が出ることはないと思いますけれども、着実にそういうものをしていきたいと思っております。勝手なことを言いましたけれども、申し訳ございません。

市 長（新井利明君） ほかにございますか。

教 育 長（田中政文君） リジャイナの件なのですが、平成3年から行っていますが、最初は行くだけというのが5年間ありました。平成8年に初めてカナダの子どもたちが来て、行ったり来たりするようになりました。県内や色々なところで、ホームステイの事業をやっているのですが、行ったり来たりしているのは、藤岡市くらいしかなくて、それがひとつの特色になっているということで、かなりの交流になっています。大体の市は毎年行っているだけで、受け入れはしていないようです。

あともうひとつの特色は、生徒と引率者全員がホームステイしているの

で、大人の交流もかなり親密になっているということです。ほかのところでは、引率者はホテルに泊まっています。けれども、子どもたちと同じように先生の家泊まったりして、そういう交流もなされているので、ほかのところの事業と比べると、そういう特色があるかと思います。だから、姉妹都市ではないけれども、かなり交流の実績は積んできていると思います。

市長（新井利明君） 当初行かれて、もう親として、子どもを持つ年代となっているわけですが、そういう藤岡に残っているという名簿はわかりますか。

教育長（田中政文君） 一度、追跡調査というのをしましたのでその資料があればいいのですが。なぜ追跡調査をしたかという、費用対効果ではないのですが、予算をいただいて、どれくらいの活躍をされているのかという話になった経緯を受けてということでした。

市長（新井利明君） やはりその経験してきたという人たちの意見をいただきたいという場面がありまして、藤岡市に残っている人はどのくらいいるのかと思いました。

教育長（田中政文君） 感想では、世界に羽ばたきたいというそういう子が多いので、どのくらい残っているかわからないですけれども。

教育委員長職務代理者（大理淳一君） リジャイナの件ではないのですけれども、昔から藤岡高校がカナダと交流をしていたんですね。たまたま私の息子がお世話になって行くことになって、帰ってきても何の役にもたっていなかったようですけれども、一緒に行ったなかで、英語に目覚めて、なかなか合格できないような外語大に入学した子もいました。だから、珍しいところを見学して、勉強にもなるからいい思いでしかないかと思いますが、それが市ぐるみになると、色々な方向に展開されると思うんです。それで活発な交流ができれば、なお素晴らしいと思います。日本、藤岡を知ってもらうためにも来てもらうということは大切だと思います。

市長（新井利明君） 今の職務代理者のお言葉も踏まえて、企画のなかでよく検討して、報告をさせてもらいたいと思います。

市長（新井利明君） それでは、以上をもちまして、第2回藤岡市総合教育会議の議題を終了させていただきます。

教育部長（志村 哲君） ありがとうございます。それではこれもちまして、平成

27年度第2回藤岡市総合教育会議を終了いたします。次回、年度内の総合教育会議は、招集すべき議題が発生した場合に随時開催したいと思いますので、よろしく願いいたします。どうもお疲れさまでした。

(14時30分)